

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県南会場＞

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 発達には個人差があり心身の状態も様々で、それぞれの子どもの表現は複雑である。それを温かく迎え入れ、安堵感と心の拠りどころになれる支援員になりたいと思う。そのためには、子ども一人ひとりの良さにしっかりと目を向け、保護者、支援員間の信頼関係、ともに育ち合う関係を築くことが必要である。荒れた言動はSOSのサインであり背景を理解し見えないところにも目を注ぎ丁寧に毅然と対応したい。
- ◆ 児童期前半は書き言葉や数量概念に進歩がみられ学習を通じて知識を増やしていき、児童期後半は一般的で本質的なものを捉えようとする概念的な思考の初歩が形成されることが分かりました。子どもは遊びのなかで相手と自分の考え方の違いに気付き、考えが認められると心地よさを感じ、友達に対してもそのように関わろうとします。友達との共感が深まるほど、自分のことを見つめる子どもになると知り、遊びの重要性を理解しました。
- ◆ 発達は乳児期から高齢期まで生涯発達であり、各時期が架け橋のように繋がることを学びました。愛着形成が安心の土台となり、温かい関わりが自己肯定感を育むことも理解できました。荒れた言動は助けを求めるサインであり、支援員は子どもの心の拠りどころであることを再認識しました。ウェルズの学びからは、子どもの理解の深堀と支援員間の共有の重要性を感じました。先生の手作りおもちゃからは、温かさと発想の豊かさを感じることができました。
- ◆ 乳児期、幼児期、児童期の発達ではそれぞれの発達過程と関わり方を学びました。児童期では、低学年と高学年で思考や行動が違うので、一人ひとりの対応にも工夫が大事だと思いました。学習を通しての知識や他の子と集団で過ごすことで規律や個性が培われること、遊びや生活を通して社会性を学んでいくということで子どもの主体性、社会性、自主性を念頭に見守り、サポートしていきたいと思います。
- ◆ 発達には個人差があり、ゆっくりと成長する子もいれば、早く成長する子もあり、焦らず子どものペースに合わせて成長の過程を見守ることが大切だと学びました。また、苦手なことばかりに目を向けるのではなく、得意なこと、好きなこと等、子どもの強みを伸ばすことで自信につながり成長を促すということを理解しました。発達段階を知ることで、子どもの行動の意味を理解し、言葉の背景にある気持ちを受け止め寄り添った支援をする等、今後の活動に活かしていきたいと思います。